

第1号 1965(昭和40)年 3月

- 発刊の辞……………人文科学研究所長 山崎謹一郎
- リチャード・フッカーの国家観……………八代 崇  
—キリスト教国家観の研究 (三)—
- テルトゥリアヌス・人とその教説……………栗原 貞一
- 現代の経済問題と教会……………小谷 春夫  
—D. L. マンビーの「神と富裕社会」を中心として—
- 新約聖書解釈についての試論……………岡 精三
- 明治初期のプロテスタント伝道—1868年～1873年—……………山口 光朔  
(付録) 明治期伝道史関係欧文文献目録
- トロントにおける聖公会会議の意義について……………藤間 繁義  
—エキュメニカル運動と聖公会の役割 (1)—
- 書 評
- キリスト教研究室ニュース

第2号 1966(昭和41)年 3月

- 自由主義経済学の底を流れるもの……………三辺清一郎  
—それはキリスト教の精神である—
- 景教異端とそのシリア語 Q'NŌMĀ に関する一考察……………木村 信一
- 聖公会—その組織・教理・礼拝……………植村 信久
- 近代性の意味するもの……………岡 精三
- Boston Personalism ……………藤倉 恒雄
- キリスト教社会教説の類型考察……………小谷 春夫
- The Formation of Modern Japan  
and Protestant Christianity……………Kōsaku Yamaguchi
- 書 評
- キリスト教研究室ニュース

第3号 1967(昭和42)年 5月

- デヴィッド・ヒュームとキリスト教 (1)―ヒュームの世界―…三辺精一郎  
神の根底は私の根底―エックハルト神秘主義の一考察―……山内 貞男  
C. M. S の日本開教伝道……………木村 信一  
キリスト教無神論―神の死の神学―……………植村 信久  
「力」についての覚書……………岡 精三  
The Holy Spirit and the Trinity…………… Paul Tsuneo Fujikura  
S.ケルケゴール邦語文献目録…………… 阪口 尚弘 (編)  
書 評  
研究室ニュース

第4号 1968(昭和43)年 5月

- ケルケゴールの「沈黙」について……………藤尾 清孝  
スチュアート朝英国における教会と国家……………八代 崇  
―ウイリアム・ロードの思想と行動をめぐって―  
Reuel L. Howe の Dialogue Method について……………藤倉 恒雄  
黎明期のエキュメニカル・ムーブメント……………藤間 繁義  
―1850年を中心として―  
悟り (Buddh. *γνώσκω*. )……………栗原 貞一  
―仏教とキリスト教の領解<sup>りょうげ</sup>について―  
コールリッジのキリスト教社会理論 (I)……………小谷 春夫  
書 評  
研究室ニュース

第5号 大学創立10周年記念 W. テンプル特集号 1969(昭和44)年 2月

- キリスト教神学と現代思想……………ウイリアム・テンプル(著)  
後藤 真(訳)

ウイリアム・テンプル博士	八代 斌助
ウイリアム・テンプルとエキュメニカル運動	藤間 繁義
ウイリアム・テンプルの聖餐論	八代 崇
ウイリアム・テンプルの社会行動とその主張	小谷 春夫
ウイリアム・テンプルの世界とその啓示論	柳原 光

---

カントの宗教論 その1	浅田 宏
C. M. S の日本初期伝道	木村 信一
—忘れられた宣教師モンドレルの教育事業—	

---

The Fourth Gospel and William Temple's Religiousness	Mark S. Oka
William Temple's Philosophy of History	Theodore A. McConnell
ウイリアム・テンプル研究文献目録	

## 第6号 1970(昭和45)年 3月

宗教と文化の問題について	岡 精三
テューダー朝英国における教会と国家	八代 崇
—スティーブン・ガーディナーの転向をめぐって—	
異端者マルキオン(Marcion)の神学思想	栗原 貞一
我が国最初のプロテスタント教会について	木村 信一
キリスト教における愛の理念	今崎 秀一
教会合同と主教職の継承	藤間 繁義
—南インド、オーストラリアおよびナイジェリア教会を 中心として—	
研究室ニュース	

## 第7号 1971(昭和46)年 6月

日本のキリスト教と母教会	八代 斌助
--------------	-------

アメリカの宗教事情—とくにキリスト教を中心として—	山口	光朔
「係わり」から見た新約と旧約概観	岡	精三
異端の源流シモン・マゴス (Simon Magus)	栗原	貞一
イギリス宗教改革研究史概観	八代	崇
エキュメニカル運動黎明期における		
聖公会と東方教会との関係	藤間	繁義
研究室ニュース		

## 第8号 1972(昭和47)年3月

“宗教の問題”	岡	精三
— ἐλευθερία の自由と ἐξουσία の自由について—		
エラスムスの Paraphrasis マタイ 5—7章について	木ノ	脇悦郎
「ルターと神秘主義」に関する覚え書	山内	貞男
—『ドイツ神学』から『キリスト者の自由へ』—		
聖公会とローマ・カトリック教会—対話のための史的考察—	八代	崇
エキュメニカル運動黎明期におけるロマ教会と聖公会	藤間	繁義
研究室ニュース		

## 第9号 1973(昭和48)年3月

宗教改革前史における新プラトン主義とエラスムス	木ノ	脇悦郎
—特にその人間観について—		
エリザベス朝ピューリタン運動の源流	八代	崇

### シンポジウム

キリスト教思想史を貫く人間の問題—人間の回復をめざして—		
(藤間 繁義, 山内 貞男, 出村 彰, 八代 崇, 武 邦保)		
永田方正年譜—聖書和訳の先覚者—	木下	清

第10号 1974(昭和49)年3月

発刊10年を迎えて……………人文科学研究所長 藤間 繁義

霊的共同体—パウル・ティリッヒの教会論—……………藤倉 恒雄

「ちがい」の発見……………岡 精三

Fascinated by Japan : War-time Memoirs of

Leonora Edith Lea, edited with a Biographical Note

……………James Takashi Yasiro

「教会合同」および「復帰」の問題の考察 (1)……………藤間 繁義

—八代主教の資料を中心として—

第11号 1975(昭和50)年3月

「事実とそれが意味するもの」……………岡 精三

コールリッジのキリスト教社会理論 (II)……………小谷 春夫

「教会合同」および「復帰」の問題の考察 (2)……………藤間 繁義

—八代主教の資料を中心として—

Fascinated by Japan: War-Time Memoirs of

Leonora Edith Lea, edited with a Biographical Note(II)

……………James Takashi Yashiro

第12号 1976(昭和51)年3月

イスカリオテのユダの問題……………岡 精三

ポンティウス・ピラトゥス攷……………栗原 貞一

英国教会の創設者たち……………藤間 繁義

—“エキュメニカル”な視点からの再評価—

H・シェルトン・スミス (H. Shelton Smith) の

キリスト教養育に関する神学的基盤についての考察……………野々目晃三

第13号 1977(昭和52)年3月

- 禅とキリスト教……………今崎 秀一  
事実とその真実……………岡 精三  
ユニテリアニズムとコールリッジ……………小谷 春夫  
神話 (I)……………山川 偉也  
資料：ソ連における国家と宗教…………… S. D. スカースキン(編)  
井尻 良夫(訳)

所蔵資料紹介

- 整備資料：西村敬太郎編「総会に現われたエキュメニカル  
ムーブメントに関する日本聖公会の動向」  
稀観資料：田島象二編著「耶蘇一代弁妄記 初帙下」

第14号 1978(昭和53)年3月

- 聖書の読み方をかえてみては……………岡 精三  
—森有正の「経験」によせて—  
英国教会組織草創期論攷……………藤間 繁義  
資料：ソ連の反宗教教育活動方針…………… S. D. スカースキン(編)  
井尻 良夫(訳)

書評

第15号 1979(昭和54)年3月

- Religiousness の問題……………岡 精三  
ウイクリフの時代と Peter's Pence……………藤間 繁義  
コールリッジのドイツ旅行……………小谷 春夫  
「キリスト教学」について……………滝澤 武人  
研究ノート  
T. S. エリオットと『クライテリオン』誌……………日下 隆平

## 文献紹介

L. L. ホワイト『ロージャー・ジョセフ・ボスコヴィチ』……………安藤 洋美

## 翻 訳

中世マジョルカのヒューマニスト、アラモン・リュル

……………レイフ・ストレシュー(著)

谷口 勇(訳)

## 第16号 大学創立20周年記念号 1979(昭和54)年12月

あいさつ……………学長 村田 恭雄

Introduction to the Twentieth Anniversary

Commemoration Issue…………… Paul S. Toma

The Christian Message to the World…………… Arthur M. Ramsey

Churches and Political Conflict…………… Steven G. Mackie

God's Call and Man's Disorder…………… Paul S. Toma

—Christian Responsibility in the Present World—

本特集号とラムゼイ講演について……………藤間 繁義

試用口語祈禱書をめぐって……………岡 精三

明治(前・中)期におけるキリスト教学校設立と発展……………野々目晃三

—桃山学院の位置づけの試みとして—

現代におけるキリスト教の運命……………滝澤 武人

旧約聖書にみられる確率概念……………安藤 洋美

## 書 評

## 第17号 1981(昭和56)年2月

アブラハムの問題……………岡 精三

ウイクリフ：英訳聖書とその論争……………藤間 繁義

非日常性から日常性へ……………山内 貞男

—「神秘的合一」における転換の問題(試論)—

- 近代日本文学とキリスト教……………滝澤 武人  
神学者の軌跡—落合吉之助博士—……………鶴川 馨  
書 評

第18号 1982(昭和57)年3月

- 隣人愛の構造への一考察……………松原 栄  
—いわゆる「よきサマリヤ人の譬」をめぐって—  
史実とその意味するもの……………岡 精三  
ウイクリフの時代の教会と国家……………藤間 繁義  
啓蒙主義・ロマン主義・キリスト教……………小谷 春夫  
ウイリアムス主教記念基金講演：  
キリスト教信仰と自然科学……………A. R. ピーコック  
藤間 繁義(訳)  
クリスマス・メッセージ：  
死ぬために生まれた方……………デニス・マッキンタイヤ

第19号 1983(昭和58)年3月

- 「救われる」ということ、と「満たされる」ということ……………岡 精三  
根源的愛の探究への試み……………松原 栄  
—再び「よきサマリヤ人の譬」を中心として—  
エキュメニカル運動の新段階……………藤間 繁義  
—アングリカン=ローマ・カトリック教会  
「合意声明」について—  
記号論と神学……………エアハルト・ギュトゲマンズ  
谷口 勇(訳)  
—神学における記号論の歴史と機能についての諸テーゼ—



草笛禅師 横山祖道のこと……………滝澤 武人

第20号 1984(昭和59)年3月

キリスト教の独自性に就て……………岡 精三

コールリッジの変貌?……………小谷 春夫

バンクーバー会議(1983. 7)と聖餐の革新……………藤間 繁義